



120th Anniversary  
 東京聖三一教会  
 Holy Trinity Church, Tokyo  
 120周年

# 聖鐘

日本聖公会東京聖三一教会

〒155-0032 東京都世田谷区代沢 2-10-11  
 TEL 3421-3646 FAX 3414-9023  
 URL trinity.web.infoseek.co.jp

牧師 司祭 長谷川正昭

## 寒梅に倣う

司祭ヨナタン 長谷川正昭

以前、速水敏彦司祭から新島襄のつくった漢詩を教えてもらったことがあります。△庭上の一寒梅、笑つて風雪を侵して開く。争わず、また務めず、自ら占む百花の魁▽

寒梅は強い風や冷たい雪に耐えそれを突き破つて花を咲かせます。他の花と争うことも自分でもせこうと努力することもありません。天地の気が梅の木に入り込むことによつて、その生命力が極寒の中に他の花に先駆けて花を咲かせます。これと同じように人生の苦難にくじけず、しっかりとそれを受けとめて踏みとどまるとき、その苦難の中から現れてくるものこそ尊いのだと言うのです。

栄光の十字架というのがあります。十字架の中心に光背を象徴する丸い輪のついた十字架です。しかし、主イエスの復活は一点の染みのない栄光の姿ではなく、苦難の相の下で理解するべきものです。弟子たちの前に現れたイエスは十字架に

架けられた時の手とわき腹の傷を残したままでした。

聖書によれば、恐れと後悔で二杯になった弟子たちは、ユダヤ当局の迫害を逃れるために家の戸に鍵をかけて閉じ籠っていました。しかし、いつのまにか入ってきてしまったイエスは真ん中に立ち、「あなた方に平和があるように」と言います。ヘブライ語のシャロームというのは挨拶の言葉でもありますから、「やあ、こんにちは」と言ったのと同じです。(イエスの日常会話はアラム語と言われていますから、ヘブライ語ではなかったかもしれません)すると、その場面のなんとも言えないおかしみが伝わってきます。

家中の戸に鍵をかけてパニック状態にある弟子たちと、いつの間にか入ってきて、真ん中に立ち、人を喰った挨拶をするイエスの対照が絶妙です。こういうのを「復活のユーモア」(椎名燐三)というのでしよう。

このことをもうすこし難しい言い方で言い直してみると、復活というのは生と死の二重性ということだと思えます。つまりイエスはいまだに十字架に架けられたままです。しかし、そのイエスが手とわき腹の傷を残したまま、弟子たちの前に現れる。この生と死の二重性というところに巧まざるユーモアが生まれるのです。

ターミナル・ケアで有名なデーケン神父によるとユーモアの定義は「にもかかわらず笑うこと」だそうです。そして、ジョークは人を傷つけるが、ユーモアは人を包むとも言っています。

季節は巡り、梅から桜、そして躑躅と紫陽花の初夏に向かっていきます。散り際の派手な桜より地味でも風雪に耐え、笑つて花を咲かせる寒梅に見倣いたいものです。



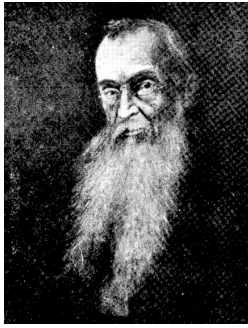
## 120周年記念特集

## 教会生みの親

## ウイリアムス主教の足跡

松田義夫

東京聖三教会が築地に誕生してから今年で120年を迎えた。教会生みの親はチャンニングムーア・ウイリアムス師(米聖公会)である。同師はキリスト教解禁直前に来日、汎神論的な精神文化風土の日本で、不屈の精神力で福音の種子を蒔き続け、日本聖公会の礎を築いた初代主教である。幾つかの史料をひもときながら同師の足跡をたどってみた。



ウイリアムス主教

**\*中国布教から日本宣教師へ**  
ウイリアムス師は、1829年米国リッチモンドで生まれ、ピューリタン(清教徒)の家系で育った。バージニア

州アレクサンドリア神学校を卒業、米国聖公会のニューヨーク教会に勤務中、56年、中国布教の宣教師として派遣された。上海を拠点に布教中、神学校時代からの僚友ジョン・リギンス師とともに日本宣教師に任命される。58年、米、オランダなど5カ国と締結した安政通商条約が発効と同時に長崎に渡来、長崎奉行所提供の寺院を教会として積極的な布教活動を始めた。その時同師30歳。漢語に精通し主祷文、十戒を漢文から和訳したり、キリスト教関係の漢文の小冊子を和訳するなどの文書伝道を盛んに行った。ウイリアムス師は優れた語学才能の持ち主であることをうかがわせる。

同師は米国聖公会宛ての書簡で次のように伝えている。

「霊界の農夫として石を集め、いばらを取り除き、将来、鋤を入れ得るよう準備し、種蒔きの労作業に服している。それまで祈るのみである。現在のところ機会あるごとにキリスト教に対する誤解や偏見を解くことに努めている(略)キリスト教は何等恐るべきものでなく、これに門戸を解放することが国家の幸福であることを説明している(略)日本人の中にもキリスト教に入ると、必ず文明が進歩し、道徳上、知識上、社会全般の幸福を

もたらすこと、これはキリスト教思想が純潔であることによることを理解している人々が少なからずいる。この専制国でも世論が力を得つつあり、我らの時は必ず来る。それは一般が考えているよりも意外に早く来る」

この言葉から同師の驚くべき不屈の精神力が伝わってくる。この書簡が書かれた四年後、徳川幕府は崩壊、さらに五年後、キリスト教禁教の高札撤去となり、260年余の鎖国禁教時代が終焉。開国時代に入ると西洋知識を願望する青年武士が同師のもとに出入りするようになった。長崎の地に日本最初の教会を建てた、教人の武士に洗礼を授けるなど優れた宣教の足跡を残した。

**\*主教江戸監督就任****築地に聖三教会創建**

1866年、NY聖ヨハネ教会で主教に按手されたウイリアムス師は、上海、武昌勤務を経て69年、日本宣教の地を大阪川口居留地に移した。自宅を礼拝堂に改造して外国人のための英語礼拝を行っていたが、さらに寄力町に講義所を開設、日本人に福音の種子を蒔き始めた。この講義所は後の川口キリスト教会へと発展する。同主教はこの地で日本人6人に授洗

している。

ウイリアムス主教は74年、米国聖公会総会で「江戸監督」に任命された。同年東京、築地入船町に家屋を借り、礼拝堂兼英語教室とし伝道を始めた。生徒数は1年後55人と記録にあるが、同所は後の立教学院へと発展する。さらに75年、深川西元町に現在の真光教会の前身となる教会堂(当時は聖三の名称)を建てた。これは東京における米ミッション第一号会堂となった。

82年築地37番地に総煉瓦建て3階の立教大学校が完成。明治政府はミッションスクール第1号として認可。さらに89年、39番地に赤煉瓦造りの教会を建立した。会衆席400余の大聖堂で、ここに今日の聖三教会が誕生した。立教学生、築地各集会所の会衆、深川聖三教会から分かれた会衆によつて礼拝が始められた。米聖公会信徒の献金やウイリアムス主教の私財によつて建てられたものだ。東京教区設立まで聖三主教座大聖堂と称され、1923年の関東大地震で消失するまで築地界限に荘厳な風格を見せていた。

聖三教会は震災後、港区赤坂青山南町に新聖堂を建立、そしてインマヌエル教会と合同して61年、現在の代沢へと変遷をたどる。日本聖公会

と聖三教会生みの親であり、育ての親でもあるウイリアムス主教は1908年(明治41年)横浜から米国へ帰国、10年故郷バージニア州リッチモンドで、ひたすら神の福音述べ伝える81年間の崇高な生涯を閉じた。

**\*遺産は生かされているか**

筆者はこの稿を書きながらいろんな感慨が頭に去来した。私たちは今、ウイリアムス主教ら先達が残した遺産に頼り過ぎ、むしろ食い潰していないか、という悔恨のような思いが胸につかえる。ウイリアムス主教ら宣教師が、この特異な精神文化の地に福音の種を蒔き始めてからおよそ150年、現在の聖公会の信徒数約5万5千人。この数が多いか少ないかという見方は意見の分かれるところだが、いずれにしても教勢は停滞しているという認識では一致している。「現状維持は退歩なり」という言葉があるが、日本聖公会はこの現実に対応する動きは極めて鈍いといわざるを得ない。

日本のキリスト教は、この辺で先達が築いた土台の上に、イエスの福音が日本人に理解できる日本人のため

の独自のキリスト教(神学)を模索、構築する時期に来ているのではないだろうか。極論すればこれまでの西欧流のキリスト教(の伝道のあり方)から脱皮する思考が必要だろう。このようないわば、宗教改革的な転換をしなければ日本のキリスト教は現在の停滞からさらに退歩の道をたどるのではないかと考えている。

**東京聖三教会と共に**

菊池英男

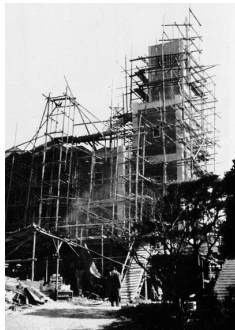
今回は教会で一番古るそうだと言う事で、「聖鐘」の担当者から120周年記念に相応しい一文を頼まれましたが、さて、なにを書いたら良いか、はたと困ったのが本心です。そもそも東京聖三教会と私の掛かり合いかから始めないと話にならないのですが、この点はお許しください。

私は父が商社に勤めていた関係で、生まれたインドネシアを振出しに外国、国内と殆ど3年周期で異動していました。聖公会との最初の出会いは1930年6月28日、私が小学校2年生になった年にたまたま東洋各地を巡回しておられた故松井主教(当時司祭)から一家揃って香港の聖ヨハネ大聖堂で洗礼を受けた時に始ま

ります。

聖三教会との出会いは1937年に神戸から転居した時にはじまりです。1938年に堅信式を受けましたが、偶然とは言え、堅信を授けて下さったのが何と香港で洗礼を授けて下さった松井主教だったのです。当時の聖三教会の牧師は多川幾造司祭、後継の牧師が秋山基一司祭でした。

1957年頃より都の道路計画が次第に明らかとなり、青山通りの拡張のため、教会が移転を余儀なくされる可能性が大きくなりました。外にも財政の事情や空襲を受けた建物の劣化が進み、移転の話が具体



建設中の三一教会

化しつつありました。たまたま時と同じくして麹町のインマヌエル教会にも道路計画による同様な問題があることが分かり、教区から両教会の合同の方針が承認され、この代沢への移転が決まりました。この合同移転に当たって忘れてはならないのは、井

上久光、猪俣浩三のお二人です。お二人は全くお互いに面識の無い一つの教会の信徒の先輩として、両教会の信徒の和を最重要問題と考え、あらゆる機会に努力をして下さった事を感じたいと思います。

代沢へ移転してからは、初代牧師の秋山司祭から坂下、竹内、五十嵐、宮崎、田光(管理)各司祭を経て現在の長谷川司祭へと引き継がれ、聖三教会としては、ついに百二十歳を迎えました。問題は、この長い歴史のある教会の活動をどのように展開して行くかという事です。私は神様がこの問題を皆で考える機会与えて下さったのではないかと思っています。老化とか少子化の問題はありますが、これは何も当教会だけの問題ではなく、日本全体の問題ですから、私たちの力ではどうする事もできません。私たちはもっと積極的な気持ちで宣教の仕事に係わって行く事が求められているのではないのでしょうか。若い人が少ないと愚痴をこぼすばかりでなく、年寄りには年寄りに出来る仕事があるはずで、教区全体のあり方も視野に入れて皆で教会の将来の生き方を考えていきたいと思えます。

## 120周年を迎えて

後藤 務

願わくは忍耐と慰安(なぐさめ)との神、なんじらをしてキリスト・イエスに效(なら)い、互いに思いを同じうせしめ給わん事を。これ汝らが心をつにし、口を二つにして我らの主イエスキリストの父なる神を崇めん為なり。(ロマ15—5)

私達の教会が長い歴史の中で守ってきた礼拝。教会のすべての力の源であると同時に私達自身の力の源である礼拝。120年を迎える三教会は教会の中の様々な伝統を大切にしながら、礼拝を守ってきました。この礼拝がパウロが言うような本当に神を崇め、嘉されるものであるのでしょうか。節目の年を祝い、感謝する今、私達はもう一度思いを新たにする必要がありますのではないのでしょうか。皆さんは違うかもしれませんが、私などは礼拝をすることがついつい何となく、惰性となり、礼拝の中で思いの散漫な自分に気づき、「平和の挨拶」では自らの偽善的な態度にうんざりし、礼拝を終えることがしばしばです。

聖堂に入ったとき、神様とすべての

人への深い思いをもてるようになることを願っていますが、なかなかその様にはなれません。まさに忍耐と慰安(なぐさめ)との神に頼り、礼拝をもにし、祈ることを心と体に刻むことができるよう願ひ続けたいと思つていきます。私たちの献げる礼拝が、神の悦びたもう潔き活ける供物として献げる霊の祭となりますように祈りたいと思つています。最後に、少し長くありませんが、今は主とともにいらつしやる加賀美先生が100周年記念誌に書かれた文章を引用させていただきます。

礼拝についていえば、私どもの主日毎に与かっているリタジーが、如何に古い時代に起源を有し長い歴史の試練を経て今日の形をとるに到ったか、また例えば「大栄光の頌」や「ニテヤ信条」に如何に貴い信仰の真理が宝石のようにちりばめられているか。私どもは礼拝のたびにこの光栄ある伝統に与かることによつて、皆でこの同じ伝統を形造りまたそれに与かつた先人たち、世々の聖徒たちとつにされ、今は天上に在る彼等と今なお地上に在る我等とが現在とともどもに同じ主を仰ぎ讚美しているのだということをつくづくと思われられます」故

にわれら…天の全会衆とともに、主の尊き御名をあがめ…」そしてまた、これら多くの先人たち、いな教会そのものが歴史の中で経験した苦悩と慰め、墮落と新生、挫折と栄光が時代を異にしても取りも直さず私たちが自身のものであること、彼等のような歩み・営みが、このすべての浮き沈みを貫いて照り輝く主の恵みと真実の光の中に置かれていたように、彼等の跡を履む私たちの歩み・営みもまた、おぼつかないものながら常に彼等と同じこの主の恵みと真実の光に導かれているのだということ…これらのことによるこびと感謝を新にさせられるのです。

## 聖三教会の音楽を辿つて

加藤 啓子

現在聖三教会の音楽に関わる者が遡ることのできるのは創立120年の約三分の一、40年余のことです。当時のオーガニストを務めておられた佐々木真紀子さんを引き継いで演奏奉仕を始めたのが小原美子さん、楽器はコーンという米製の電気オルガンでした。現在のオルガンと同じ場所に位

置し、ギャラリー正面が聖歌隊席でしたが、その頃は聖歌隊は季節聖歌隊、つまりイースターやクリスマスにのみ召集されたものでしたから、常設聖歌隊は長年の夢でした。1979年クリスマスに季節聖歌隊で初めて「ハレルヤコーラス」を歌い、創立100周年には信徒全員で奉唱。その2年前の86年に思いも熱く、常設聖歌隊が誕生したのです。クワイヤロープはその時のメンバーがそれぞれ出資して揃えました。

「主よ汝らとともにいますことを」…の文語文の聖餐式のチャントは今でも多くの信徒の皆さんの体に染み込んでいるものでしょう。当教会では1990年の祈祷書改正に遅れること7年、『聖歌集増補版』に含まれた礼拝式文用曲譜からいくつかを選んで歌ったり、アンケートをとつて新しいチャントに切り替えました。そして10年たった昨年、賛美の形はひとつに限らず、豊かに、という考えのもと『聖歌集』の改訂とともに新たなチャントに変えたことは周知のことです。

聖歌隊の誕生で取り組んだことのひとつに「詩編を歌う」ことがあります。毎月第1主日の聖餐式に詩編を歌うようになって20年余、この習慣が



礼拝で歌う聖歌隊

トップを増やし、より礼拝音楽の充実をはかりました。長年3人体制で続けてきた奏楽も口語のチャントに切り替えたことを機会に新たに2人、3人と加わり、現在20代から70代まで6人で担っています。

### その他の音楽活動

聖歌隊が軌道にのつてからはプロの方に助けを頂きながらも教会内の音楽家で、宣教の「環」としてクリスマスコンサートを開いています。また、1991年の湾岸戦争を機会に、平和のために私たちにできることをしたいと始めた「祈りと調べ・平和のために」シリーズは8回を迎えています。

### ぶどうの木歩み

千村 雅信

代沢移転25周年記念誌によると、築地の三教会には日曜学校のための部屋が3部屋用意されていたという。現在これ以上の詳しいことは判りませんがかなりの子供たちが日曜学校に来ていたと思われます。

青山三教会からの信徒の話によると、青山時代の三は50〜60人の子供たちが日曜学校に来ていたそうです。又、インマヌエルも人数は少なかつたが、近所の子供たちなどが日曜学校に参加していました。

代沢に移転した後、記録によると近隣の3つの小学校の前で手作りのピラを配ったところ予想以上にたくさんの子供たちが集まったと書かれています。人数が多いため分級のための部屋を確保することに苦労していて、塔の部屋や現在納骨堂に使っている小部屋も使っていたそうです。日曜学校の最も盛んな時代と言えるでしょう。60年代のことです。70年代に入ると塾や稽古ごとなどで急に人数が減ってきました。

74年竹内司祭着任後、子供のための礼拝式文を日曜学校のスタッフと一緒に作って、既成観念にとらわれない日曜学校を目指し、子供たちの発案によりぶどうの木と名付けました。この頃はまだ近隣の子供たちも多数参加していました。

80年代に入ると子供たちの参

加傾向が変わり、キリスト教系の小学校からが多くなり、信徒の子供と半々の状態になりました。原因は学校の方針として日曜日にはなるべく近隣の教会に行くようにという指導があったためです。しかし、これも90年代にこの方針が徹底されなくなると子どもたちは又減り始めてきました。現在は信徒の子供たちが主で近隣の子供たちは少数です。しかし代沢こども文庫に来ている子供（赤ちゃん？）達や若いお母さんたちに教会を知ってもらう働きかけをしているので、又近くの子供たちが増えてくることを願っています。



1967年日曜学校クリスマス礼拝

### オルガンと奏楽奉仕

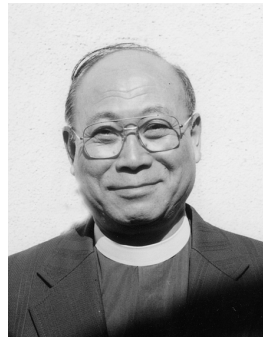
日本聖公会の中でほとんどなくなつてしまつていたため、当初は英語で歌唱されているものを聞くなどとして試行錯誤のうちに取り組みましたが、今では会衆の賛歌としてスムーズに歌えることになつたことは感慨深いことです。また、クリスマスイヴ礼拝前の池の上商店街でのキャロリングも聖歌隊ができてから始まつたことです。

前述したオルガン、コーンは音の柔らかなものでしたが、徐々に老朽していったので79年、聖公会の礼拝には最も相応しいと思われる英国ハリソン&ハリソン社のオルガンを購入、後にス

## 討 報

ヨハネ島田忠雄司祭(東京教区退職司祭)が4月15日逝去され、聖アンデレ教会で通夜と葬送式が行われました。享年82歳。召された魂の平安とご家族の慰めをお祈りいたします。

島田先生は執事として三教会に5年間奉職されました。ご家族も聖三教会の各グループでお働きです。



島田忠雄司祭

## 島田司祭とワイン

東理夫

4月16日、島田忠雄司祭の逝去の報に接して、あ、しまった、とあることを悔いた。島田さんが元気になったら開けようと思っていたワインがあったからだ。

酒が好きだ。飲むのも好きだが、そう強くない。酒の持つ独特の味わいと気分が好きなのである。飲むよりも好きなのは、酒にまつわる物語だ。中で、幕末、薩摩藩の藩士15人が英国へと密留学し、その中の一人、当

時最年少の15歳だった長沢鼎が英国で「新生活兄弟社」というキリスト教系の新興団体に加わり、アメリカに渡ってカリフォルニアに腰を据え、そこでミサ用のワイン造りに励んだという話がある。後にワイン王と呼ばれる、日本人として最初にワインを造った人間である。長沢は結局、旅行でしか日本には帰ろうとせず、かの地で生を終えた。彼の造ったワイン「長沢ワイン」は現在、鹿児島のパート「山形屋」で売っている。ぼくは彼の足跡を追い、アメリカを横断し、最後の朽ち果てたワイナリーまでたどり着いた。

という話を島田さんにして、聖餐のワインはおいしいね、と言ったら、2本手に入れてくださった。ローマ法王庁御用達だという「ヴィノ・デ・ミサ」である。

聖三の聖餐のワインはおいしい。時に薄く、時に酸味がち、時に古すぎるように思われることもなくはないが、おおむねうまい。杯の内側の色を映して黄金色に輝くところなんか最高である。

ぼくの家には、ついに開けられることのなかった2本のワインがある。いつか島田さんと飲もうと約束していたものだ。今ぼくはそれを開けようとしている。島田忠雄司祭への感謝と、安らかな眠りに杯を掲げるためである。島田さん、ワインを有難う。一緒に飲めなかったことだけが、心残りです。

## まじわり

### 聖霊降臨日に按手

鈴木輝夫さん

3月23日、復活日の主日礼拝で洗礼を受けてイエス・キリストの弟子に連なり、5月11日の聖霊降臨日に植田仁太郎主教の按手を受けた。



鈴木輝夫さん

そんな輝夫さんを見守ってきた編集子は、大いなる力が働いたのではないかと、そんな感謝と喜びの思いを抱かせるような人信であった。東理夫兄主宰の映画鑑賞会にしばしば教会を訪れていたの、単に「映画好きなおじさん」と私たちには思わせる向きもあつた。そんな輝夫さんはいつの間にか主日礼拝、そして昼食会にも顔を見せるようになった。私たちも自然と長年の知己のように接するようになっていた。

汎神論的風土の社会で、サラリーマン稼業を卒業して教会の門をたたいたとなれば、その胸中に何か期す

るものがあつたのではないかと、なんでもかきかき考えてしまふ。そんな下世話な質問に「以前から教会礼拝に参加したいと考えていましたが、たまたま映画会の張り紙を見たのがきっかけで教会に来るようになりました」と言う。そして受洗の際の心境についても「心の中の葛藤も抵抗感もありませんでした」と屈託なくさらりと答えてくれた。

どうやら輝夫さんは何事にも余り気負わず、冷静、そしてごく自然体で人生を過してきたのではないかと、編集子はそんな印象を勝手に抱いてしまった次第。教会の門をくぐった動機について、前述のように映画観賞がきっかけと言っただけで胸中の思いを多くは語らないが、よき伴侶が幼児洗礼を受けて以来のトリック信徒と聞けば、輝夫さんに大いなる力が常に働き続け、なんの気負いもなく自然に洗礼への道をたどったことが理解できた。

「明るくフレンドリーな雰囲気で大変良い」というのが輝夫さんの三教会評。サラリーマン時代、営業職、営業技術、プロジェクトエンジニアなどの仕事を経験、教会でもその体験、感覚を役立ててくれることを期待したい。現在、代沢3丁目でご夫人と次男の3人で生活、長男は結婚、独立。

(編集子)

### 須賀司祭を送る会

2月17日に聖十字教会の司祭に赴任された須賀司祭の送別会が行われました。三教会や各グループからのお祝いが贈られました。又、沢山の方たちからお祝いと期待の言葉が寄せられました。



### グリーンデーピクニック

毎年4月29日には恒例になっている山手グループのグリーンデーピクニックが神学院で行われました。今年には三教会が当番教会なので進行とゲームのプログラム、食事の用意、会場設置など数週間前からぶどうの木が中心となつて準備万端整え当日を迎えました。

当日は初夏のような好天に恵まれ食事のときは木陰を探したくなる程でした。子供と大人合わせて160人以上の参加者があり、野外礼拝に続き子供たち中心のゲーム、楽しい昼食(バーベキューや焼きそ

ば)と進み最後は綱引きをして楽しく過ごしました。



子供VS大人の綱引き

### 女性はどこにいるの？

#### リレートーク

小林幸子

今年、日本聖公会の定期総会が開かれる年です。二年に度の総会ですが、5月27日〜29日に東京で開かれます。総会代議員は、各教区聖職2名信徒2名の合計44名です。加えて11名の主教によつて議案の審議がなされます。そのうち女性は何パーセントでしょうか？今までは9%にすぎません。信徒の4分の3は女性といわれていますが、女性はどこにいるのでしょうか？

今年、もう二十年に二度のランベ

ス会議が開かれます。

38人の首座主教のうち女性は1人です。ランベス会議の約7000人の主教たちのうち11人が女性です。(16人の女性が主教に聖別されましたが、5人が退職)全聖公会の中には7500万人の信徒が130の国にいます。半分が女性だとして、ランベス会議の主教の半分350人が女性の主教になるためには、何百年もかかるかもしれないのです！女性はどこにいるのでしょうか？

今年、日本聖公会において女性司祭に按手されてから10年を迎えます。1998年の総会決議をへて、その年の12月に渋谷先生が初めて司祭にられました。それまでの道は、とても長く茨の道でした。明治以来、500人以上の女性たちが、教会で働いてこられました。聖職ではありませんでした。やっとつい10年前に扉が開かれたところなのです。

社会の流れは、「男女共同参画」とうたわれ、いかにも男女平等の社会になつてきたような思いを持つ人が多いかもしれません。ですが、本当にそうでしょうか？平等であることの本質は、一人一人の人がその存在を尊重されるということだと思います。

『二人一人』は本当に尊重されているのでしょうか？男性も女性も、そしてすべての人が共に尊重され、神さまの働きに参与することができるようになります！

### 創立120周年感謝献金のお願

司祭 長谷川正昭

私たちの東京聖三教会は、今年で満120歳を迎えます。この世田谷の代沢に新天地を求めて、青山から移転してから47年になります。建物も老朽化が激しくなりました。耐用年数はまだしばらくあると思いますが、何と言つても外観、内部のほころびは隠せません。

今回、篤志家の信徒の御遺族から聖堂保全のための指定献金が寄せられたのはお恵みとしか言いようがありません。旧婦人会からの献金と併せて以前から懸案であった聖堂内部の修繕、補修に乗り出すことになりましたが、皆様方にも幾許かの御負担をお願いすることになりました。御趣旨に御賛同のうえ、よろしく御協力をお願い申し上げます。

120th Anniversary  
東京聖三一教会  
Holy Trinity Church, Tokyo  
120周年



牧師動静

- 2月 11日(月) COAの会もちつき大会
- 14日(木) 山手牧師会
- 16日(土) 礼拝勉強会、大郷宏司祭来訪
- 17日(日) 渡辺康磨氏大斎講話、須賀義和司祭送別会
- 23日(土) 山手グループ静想会(ナザレ修女会)
- 24日(日) 吉村庄司祭大斎講話、送別会
- 28日(木) 鈴木輝夫兄洗礼準備
- 3月 2日(日) 寺内安彦兄証詞
- 6日(水) 鈴木輝夫兄洗礼準備
- 13日(木) 山手牧師会
- 14日(金) 鶴牧集会
- 15日(土) 故久野豊太郎兄逝去50周年記念式(春秋苑)
- 19日(水) 教区レクイエム(説教)、鈴木輝夫兄洗礼準備
- 20日(木) 島田忠雄司祭見舞い(三宿病院)
- 22日(土) 山手イースターヴィジル礼拝(聖マーガレット教会)
- 23日(日) 復活日礼拝、鈴木輝夫兄洗礼式
- 26日(水) 生川又平兄病床聖餐式(榛名)
- 27日(金) 田瀬幸男兄病床聖餐式
- 29日(土) 第106定期教区会
- 4月 4日(金) 聖アンデレ将来計画委員会(教区)
- 5日(土) 日野原重明先生講演会下見(関内ホール)
- 6日(日) 国際ギデオン協会世田谷支部員礼拝参加、活動紹介、献金募集
- 9日(水) 山手牧師会歓送迎会
- 10日(木) 総務会
- 11日(金) 聖書を読む夕
- 17日(木) 故菅原良平兄埋葬式、故島田忠雄司祭通夜式
- 18日(金) 故島田忠雄司祭葬送告別式
- 26日(土) 故中島未知姉逝去一周年記念式

\*定時のプログラム・礼拝などは外してあります。

教会委員会議事録抜粋2008年2月~3月]

<2月>

- ・須賀義和執事は1月26日に司祭按手。聖三一教会牧師補解任、聖十字教会副牧師任命。  
長谷川司祭は聖十字教会管理牧師を継続。  
吉村司祭の第4主日聖三一教会勤務解任。  
長谷川司祭は第4主日の午後に聖十字教会委員会に出席する。
- ・1年委員追加。女性から八幡道子さんを確定した。
- ・教区会代議員。受聖餐者総会でいろいろ意見が出たが今年度は委員会決定を変えない。
- ・大斎研修。「神の国を目指す旅人となる」をテーマに、4週に亘り講話が行われる。
- ・宣教委員会(仮称)発足。村上、名倉、古川、八幡の現委員4名の他、岩立竜、川崎葉子、後藤敬一、櫻井あずさ、菅原久平、滝博邦、寺内安彦、東理夫の各氏を加えて構成される。任期1年(複数年も可)。2月17日主旨説明発足会。奇数月第三主日に委員会を開催し、何をしていくかを教会委員会に提言、教会に因る。
- ・イースターヴィジル礼拝。今年から聖マーガレット教会と聖三一教会の持ち回りで礼拝を行う。今年は聖マーガレット教会とする。
- ・行事補助者を尾澤うめ子、滝博邦、村上裕子、松田百合、名倉雅子の各氏に依頼する。
- ・ぶどうの木。今年は子どもの礼拝を、8月を除く毎月第三週目に入れる。
- ・総務。名簿改定の登録をイースターに行う。緊急時の連絡はファックスかメールで行うが、それらが無い人は代理の人を登録する。

<3月>

- ・新しい礼拝式文をイースターより使用する。
- ・聖霊降臨日(創立120周年)。植田仁太郎主教が司式、説教をされる。
- ・信徒奉事者が6人体制となるため、分餐を1名で行うことを検討する。
- ・釜山教区蔚山教会は今年が創立30周年。4泊5日で訪問するツアーを計画する。
- ・働きグループ参加者は一覧表に自主的に記入してもらう。
- ・グリーンデーピクニック。聖三一教会が当番にあたるので、各係りを担当する。

礼拝集案内	
主日礼拝 日曜日	聖餐式 午前八時三十分
週日の礼拝 木曜日	夕の礼拝 午後四時
教会暦の定める祝日 ぶどうの木(レレ)の礼拝 日曜日	聖餐式 午前九時三十分
集会 壮年会・ELの会 BSA例会 HIGHH俱樂部	毎月第一日曜日 毎月第三日曜日 適宜
聖書を読む夕 火曜日	午前十時三十分
聖書を読む夕 第二第四金曜日	午後七時
代沢こども文庫 第三水曜日	午後時